

## 一部の NGO が公表した当社グループの石炭関連企業向け融資金額について

ドイツの NGO であるウルゲバルト他が 2021 年 2 月 25 日付でレポート<sup>1</sup>を発刊し、当社グループが 2018 年 10 月以降、石炭関連会社に対して US\$22.2 billion の融資を実施しており、世界で最も多額の融資を行っていると記載しております。

当社はこれまでウルゲバルトともコミュニケーションを重ね、同団体の問題意識の把握に努めるとともに、当社の気候変動問題に対する方針や取り組みを説明することで、同団体との相互理解を深めております。そうした対話の中で、当社としては、本レポートの記載は実態にそぐわず、当該金額の正確性・適切性に問題があるとの見解を同団体と共有しておりますが、ステークホルダーの皆さまにも同じ情報を共有する目的から当社の見解を以下の通り説明します。

具体的には、下記のような問題を認識しております。

### ① 融資金額の集計対象の問題点

- 対象案件や対象国が限られているシンジケートローン等の組成金額の公開情報のみで集計されている  
→ 融資取引のうち一部の情報のみを集計しており、比較可能性に問題あり

### ② 融資金額の集計方法の問題点

- 石炭鉱業事業や石炭火力発電事業と関係のない運転資金が含まれていることに加え、貸出金額ではなくコミットメントラインの設定枠金額が使用されている
- 対象期間内にコミットメントライン設定枠や貸出が更改される都度重複計上している  
→ 対象の融資金額を適切に集計しておらず、金額が過大計上されている

### ③ 対象企業の選定方法の問題点

- 石炭関連売上比率や石炭火力発電所依存度を子会社単位で判定した上で、その親会社向けの融資について、資金用途にかかわらず全額計上されている
- 脱炭素社会への移行に対する各社の将来に向けた取り組みが考慮されていない  
→ 同種試算と異なり、事業構成をウェイト付けしておらず、金額が過大計上

---

<sup>1</sup> 「Groundbreaking Research Reveals the Financiers of the Coal Industry」  
(<https://urgewald.org/en/medien/groundbreaking-research-reveals-financiers-coal-industry>)

当社にて集計データを確認したところ、ウルゲバルト他が集計した US\$22.2 billion のうち、US\$3.6 billion は対象期間内に重複して計上されております(上記問題点②に該当)。これに加えて、US\$5.4 billion はグループベースでの売上高における石炭関連依存度が概ね 5%以内であり、かつ脱石炭に向けた対応方針を策定している企業向けの融資金額となります(上記問題点③に該当(但し上記問題点②との重複を除く))。以上を勘案すれば、少なくとも公表金額の約 4 割は不適切な計上であると考えております。

また、上記以外の集計金額につきましても、石炭関連事業をその資金使途としないものが多数含まれているという問題を認識しており、これらのことから、石炭関連会社に対して世界で最も多額の融資を行っているという記載の根拠となる融資金額は実態にそぐわず、正確性・適切性に問題があるものと考えております。

当社グループは、2020 年 4 月に改定した「環境・社会に配慮した投融資の取組方針」において、石炭火力の新規建設を資金使途とする投融資等や山頂除去方式で行う炭鉱採掘事業に対する投融資等を行わないことにしております。また、当該方針については、ステークホルダーとの会話、外部環境変化や当該方針の運用結果を踏まえ、定期的に見直しと運営の高度化を図っています。

また、当社グループは、脱炭素社会への移行をはじめとするお取引先の SDGs/ESG への取組みを支援していくため、エンゲージメント、即ち「深度ある建設的な対話」を重視しています。そうした対話を通じてお取引先の課題・ニーズを深く理解したうえで、グループ一体的なコンサルティングにより、事業構造転換を含めたサステナビリティ戦略を共に考え、多様なソリューションを提供することで、お取引先の企業価値向上に繋がる形での支援を行っています。

当社グループは、引き続き脱炭素社会への移行も含めたサステナビリティへの取組みに、グループをあげて邁進してまいります。